結核　第六卷　第十一號　昭和三年十一月二十四日發行

綜說

生命保險ト結核（第六回日本結核病學會總會特別講演）

第一生命保險相互會社長　矢野恒太

此ノ度ノ結核學會ニ何ニカ話シヲセヨト、田澤會長ヨリ御照會ガアリマシタガ、俗務多端デカヽル學術的ノ會合ニ御話シヲスルヤウナ材料モナイノデ、再三斷リマシタガ第三日目ハ學會ノ中デモ少シ色變リノ方面ヲ御願ヒスルコトニナツテ居ルカラ、是非何ニカ話セヨトノコトデ、自分モ仲間入リヲシタワケデアリマス。

私ノ御話シハ生命保險會社ト結核、卽保險會社ガ結核トイフモノニ如何ニ大ナル損害ヲ被ツテ居ルカトイフ事ヲオ知ラセシタイト思フノデス、別表ハ私ノ會社ノ調査課ノ調査デスガ、生命保險會社ハ結核ニ一番惱マサレルモノデ、其ノ他消化器病、心臟病、卒中等モ相當ノ損害ヲ與ヘマスガ、數字ノ上ニ於テハトテモ結核ト比較ガ出來ナイノデアリマス、其故ニ私自身トシテハ性病、癌等ノ學會ニモ關係シテ居リマスガ、結核ハヨリ以上重大ナル意義ヲ以テ觀察シテ居ルノデアリマス。一體人間一生ノ行路ヲ例ヘテ見レバ、富士山ト筑波山ヲ兩端ニ有スル平野ノヤウナモノデ、乳兒、幼年期ノ死亡率ハ富士ノ如ク高ク、壯年ニ至リテハ平野トナリ、高年ニ達スルニ及ンデ再ビ筑波ノ如ク高イ死亡率ニブツカルノデアリマス、然ルニ此ノ兩山ノ間卽平野ノ中央ニ兀然トシテ大ナル山ガ出來タトシタナラバドウデセウ、卽近年十五歲乃至五十歲ニ至ル間ニ、結核ノ爲ニ高イ死亡率ガ表ハレテ來テシカモ年々高クナルトイフ事ハ、國民ニトリテ非常ナ脅威デハアリマセヌ

昭和二年度本邦生命保險會社被保人結核死亡調

會社	總死亡人員	全死亡率	結核死亡人員	總死亡人員ニスル結核死亡人員對率	總死亡金額	結核死亡ニ對スル金額
	人	%	人	%	圓	圓
い	4.142	1.37	740	17.87	5.565.000	994.466
ろ	4.412	1.28	848	19.13	4.230.890	809.369
は	6.722	1.23	1.373	20.43	6.714.720	1.371.817
に	2.204	0.98	569	25.82	4.171.486	1.077.078
ほ	1.346	0.84	400	29.72	3.024.522	898.888
へ	2.319	1.15	455	19.62	2.252.775	441.994
と	2.723	1.29	464	17.04	2.652.625	452.007
ち	2.392	1.17	383	16.01	2.665.800	426.795
り	2.194	1.34	378	17.23	1.540.816	265.483
ぬ	1.912	1.25	291	15.22	1.265.593	192.623
る	1.207	1.09	264	21.87	1.305.900	285.600
お	1.469	1.45	267	18.18	1.422.569	258.623
わ	1.785	1.41	283	15.85	1.416.645	224.538
か	1.304	1.05	278	21.32	1.100.902	234.712
よ	985	1.04	196	19.90	899.869	179.074
た	735	0.92	164	22.31	849.080	189.430
れ	998	0.83	233	23.35	965.374	225.415
そ	890	1.14	241	27.08	782.053	211.780
つ	723	1.08	197	27.25	759.350	206.923
ね	1.030	1.08	156	15.15	695.550	105.376
な	670	0.76	173	25.82	611.826	157.973
ら	699	1.01	149	21.32	752.247	160.379
む	579	1.29	91	15.72	427.900	67.266
う	617	1.10	118	19.12	671.509	128.393
ゐ	405	0.92	87	21.48	629.777	135.276
の	595	0.94	109	18.32	532.844	97.617
を	364	0.92	70	19.23	340.883	65.552
く	429	1.03	75	17.48	349.400	61.075
や	205	0.78	48	23.41	209.503	49.045
ま	225	0.91	35	15.56	176.300	27.432
け	267	1.36	52	19.48	225.759	43.978
ふ	419	0.98	81	19.33	360.722	69.728
こ	158	1.11	32	20.25	121.452	24.594
え	318	1.05	60	18.87	413.525	78.032
て	24	6.27	9	37.50	15.763	5.911
合計	47.447	1.15	9.365	(19.74)	50.120.919	10.323.242

年度	總死亡人員	結核死亡人員	總死亡人員ニスル結核死亡人員對率	總死亡金額	結核死亡人員ニ對スル金額
	人	人	%	圓	圓
大正十五年	46.041	8.713	18.92	46.395.182	9.139.779
大正十年	36.672	6.884	18.79	27.163.064	5.252.057
大正五年	19.206	4.309	22.44	10.775.884	2.368.579

備考　上記結核死亡ニ對スル合計金額ハ各社毎ニ總死亡ニ對スル結核死亡ノ人員率ヲ總死亡金額ニ乘ジ其レヲ合計シタルモノナリ

日本帝國內地人口ニ對スル總死亡ト結核死亡

年度	總人口	總死亡	人口千ニ付	結核死亡 肺結核	結核死亡 其他	人口一萬ニ付 肺結核	人口一萬ニ付 其他	人口一萬ニ付 計	總死亡千ニ付結核死亡
	人	人		人	人				
大正11	57.655.800	1.286.941	22.32	85.515	39.991	14.83	6.94	21.77	97.5
12	58.481.500	1.332.485	22.78	81.547	36.669	13.94	6.27	20.21	88.7
13	59.138.900	1.254.946	21.22	79.410	34.819	13.43	5.89	19.32	91.0
14	59.736.822	1.210.706	20.27	81.546	34.410	13.65	5.76	19.41	95.8
昭和1	60.521.600	1.160.734	19.18	80.330	32.715	13.27	5.41	18.68	97.4

大正十四年度年齢別結核死亡

年齢	人口	結核死亡	人口一萬ニ付
	人	人	
0—14	21.924.045	16.951	7.73
15—29	15.339.275	59.860	39.02
30—44	10.387.229	21.740	20.93
45—59	7.496.869	12.157	16.22
60以上	4.589.404	5.248	11.44
計	59.736.822	115.956	19.41

カ、一般ニ死亡率ハ乳兒期ニ高ク、夫レヨリ次第ニ低クナリ、高年ニ至リテ又高クナルノガ普通デ、之ガ天然ノ當然ダト思ヒマス。卽餘リ父母ニモ國家ニモ厄介ニナラヌ間ニ乳兒期ニ死亡スルカ、又ハ人生ノ成スベキコトヲナシ了リテ花ノ凋ムガ如ク凋落スベキ時期ニ死亡スベキデアリマス、然ルニ結核ニ於テハ二十歳前後マデ父母ヤ國家ノ厄介ニナリ、之カラ漸ク何事カ始メントスル青年期ニ至リテ發病シ、ソレカラ長ク病氣シテ終ニ死亡スルモノガ極メテ多イカラ社會國家ノ上カラノ損失ハ勿論、保險會社トシテハ丁度加入早々死亡サレルトイフコトデ極メテ重大ナ問題デアリマス。

吾ガ國ニ於ケル結核死ハ近年益〻減少シテ最近一萬人ニ對シ約十九人ノ割合デアルト云ハレテ居ルガ、米國ニ於テハ十萬人ニ對シ全結核死ハ八十六人(其中肺結核ハ七十五・七%)デ、吾ガ國ニ比シテ約半分デアリマス。

而シテ吾ガ國民ノ年齢別ニセル構成ヲ見レバ、小兒ノ數ガ極メテ多イ。國民ノ年齢別構成ヲ圖ニシテ見マスト、底邊ヲ下方ニ頂點ヲ上方ニスル三角形ヲナシ、底邊ハ小兒ノ數ニ相當スルノデアリマスガ、日本ノ三角ハ此底邊ガ非常ニ廣イ、結核死ハ小兒ニハ割合ニ少ナイ、卽三角形ノ底邊ニ當ル部分ハ結核ニ侵サレガタク、頂點ノ方ノ老人ハ總數ガ少イカラ大シタ影響ハナイ、故ニ三角形ノ中央部卽十五乃至四五十歳ニ於テ之レニ侵サル、モノガ多クテモ、全人口ニ對スル結核死ハ割合ニ少ナイヤウニ見ヘヲバナラヌ、米國ナドノヤウニ日本ヨリモ比較的小兒ノ數ノ少ナイ所ト比ベルト、假令結核死亡率ガ同率デアツテモ日本ノ方ガズツト高率ナノデアル、然ルニ此小兒ノ多イ日本ノ方ガ米國ノ倍率デアルトハ驚クデハアリマセヌカ、日本人ノ十五歳乃至四十歳位ノ死亡ヲ見マスト、全死亡數ノ五十%ガ結核デアリマス、十五年以下ノ小兒ヲ除ヒタ全人口ニ對スル結核死亡率ヲ見ル時ハ、小兒ヲ入レタ全人口ニ對スル結核死亡率ヨリモ著シク高クナルモノデアリマス、此ノ事ハ恰モ小兒ヲ入レテ結婚ヤ離婚ノ統計ヲ取レバ極メテ其ノ率ガ低下スルト同樣ニ、結核死ノ少ナイ小兒ヲ入レテ統計ヲ取ツテ直ニ之レヲ小兒ノ少イ諸外國ノ統計ト比較スルトイフコトハ誤リデアリマス、カヽル點ニ於テ

統計家以外ノ人ノ統計ニハ往々誤レル場合ガアルノデアリマス、山ノ嶺ニアル灌木ガ山麓ニ在ル喬木ヨリ長イト云フコトノ誤ヲ考ヘナケレバナリマセン。

別表ヲ御覽ニナルト御分リニナリマスガ、昨年中我國生命保險會社三十五社ニ於ケル全死亡率ハ〇・七六——六・二七％デ、平均一・一五デアリマス、其死亡人員百人中結核死亡者ノ數ハ一五・一五乃至三七・五〇％平均一九・七四卽約二割デアリマス、私ノ關係シテ居ル會社第一相互ハ表ニ「ほ」ト記入シテアリマスガ、全死亡率ハ〇・八四％デ其中結核死亡者ガ二割九分七厘二毛トナツテ他會社ニ比シ極メテ高率デアリマス、金額ノ方デ見マスト總死亡金額ハ三百二萬四千五百二十二圓デ、結核死亡ニ對スル金額ハ八十九萬八千八百八十八圓デ約三分ノ一トナリマス、三十五會社ノ總死亡金額ハ五千十二萬圓デ、結核死ニ對スル支拂ハ千二十二萬餘圓デス。此外ニ猶四五ノ會社ガアリマスガ、統計觀察ノ上ニ大ニ顧慮スベキ程ノ數字デハアリマセヌ而シテ大正五年ニ於テハ全會社ヲ通ジテ結核死亡支拂高ハ二百三十七萬圓。大正十年ニハ五百二十五萬圓、大正十五年ニハ九百十四萬圓デ、此ノ金額ハ年々增加ノ傾向ヲ示シテ居リマス。

別表デ大正十一年ヨリ五年間ノ統計ヲ見レバ、日本人ノ總死亡中約一割ハ結核死トシテ報告サレテ居リマスルガ、生命保險會社ノ統計デハ一割九分七厘卽約二割トナツテ居リマス、特ニ吾ガ第一相互ニ於キマシテハ十分ノ三トイフ數字ヲ示シテ極メテ高率ヲ示シテ居リマス。

會社ノ死亡統計ヲ國民死亡統計ト比較スルニ、結核ニ於テハ特別ノ注意ヲ要シマス。

今世界各國民ノ年齡別構成ヲ見ルニ、佛國ノ如キハ小兒ノ數ガ極メテ少ナク吾ガ國デハ之ニ反シ小兒ノ數ガ極メテ多イノデアリマス、故ニ此二國ノ統計ヲ直接ニ比較シテハナラヌコトハ前ニモ述ベマシタガ、生命保險會社ノ被保險者ニハ小兒ノ數ガ佛國ヨリモ更ニ非常ニ少ク、多數ノ會社デハ十五歲以下ノ被保險者ハ一人モ居ナイノデアル。故ニ一般國民統計ノ如ク結核死ノ割合ニ少ナイ小兒ヲ入レテイル結核死亡率ノ統計ハ、多ク小兒ヲ除外スル保險會社ノ統計ト同日ニ論ズルコトハ出來ナイノデアリマス。此道理カラ年齡構成ヲ異ニスル諸國ノ人口統計ヲ直接ニ比較シテ論ズルコトハ出來マセンカラ、一般ニスエーデンノ人口構成ヲ標準トシテ、比較スベキ國ノ統計ヲ改良スルコトガ行ハレマシタ。之レヲ「ス

タンダードホピュレーション」ト稱シテイマス。

扨テ保險會社ガ契約ノ際ニ體格檢査デ結核ヲ除外シテ選拔スルコトガ出來ナイカドウカトイフ事ハ大ナル問題デアリマシテ、コトニ西洋諸國デハ體格檢査ノ際、往々婦人ノ膚ヲ見ルコトスラ出來ナイ所モアリ、且受檢者ノ體度モ治療醫ノ場合ト多大ノ相違ガアルノデ御座イマシテ、今日ヨリ檢査ヲ一層嚴ニシタナラバ結核ガ少ナクナラウガ契約者ガ減リハセヌカ、又一方檢査ヲ緩ニスレバ結核其他ノ病人ノミガ契約スルトイフコトニナリハセヌカ、夫レ故會社ノ檢査ハ或程度以上完全ニハ行ハヌケレドモ、病體ノ加入者ニ對スル威嚇ニハナリマス、而シテ最後ノ諾否ハ診査醫ニ一任セズ、醫長ガ定メルノデアリマスガ結局結核患者ノ加入ヲ全然防クコトハ出來マセン、第一相互ニ於テハ結核死亡ハ割合ニ多イガ、全死亡數ハ極メテ少ナイノデアリマス、之ノ點ハ他ノ病人ハ體格檢査デ割合ニ防ゲルガ結核患者ハ防ゲナイトイフコトニナル、之レト同時ニ全死亡數ガ少ナケレバ結核死ガ特ニ多クナクテモ割合ニハ多クナルノデアル、一般ニ保險契約ノ古キモノハ死亡數ガ多ク契約後五年間ハ死亡率ガ割合ニ少ナイノデアリマス卽「メヂカル、セレクション」ノ當初五年間ハ一般死亡數ガ少ナイ、第一相互ノ契約ハ最近五六年ニ其大部分ヲ增加シタノダカラ醫的撰擇ノ效力デ一般ノ死亡ハ古イ會社ヨリモ低イノニ、結核ダケハ其割ニ低イカラ結核ガ比較的多イノデアラウ、其外ニ第一相互ニ於テ全死亡率ハ割合ガ低イニカ、ワラズ結核ノ死亡率ノ多イ理由ガ今一ツ考ヘラレル。

一般ニ保險會社ニハ所謂入口ト出口トアツテ、入口ガ樂デ出口ガ面倒ナモノ、入口ガ面倒デ出口ガ樂ナモノトアルガ、第一相互ノ如キハ後者ニ屬スルモノデアリマシテ、普通日本デハ契約後滿二年ヲ經過シテ死亡スレバ無條件デ支拂スルコトナツテイルガ、最初二年間迄ノ間ニ死亡スレバ色々ナル理由ノモトニ支拂ヲ拒ミ、結局始メヨリ加入セザルモノト見做シテ死亡率ノ內ニ入レザルコトモ出來ル、然ルニ第一相互ニ於テハ特ニカヽル場合解約シタルコトナク、是等モ同樣ニ統計ノ中ニ入レルカラ結核死ガ多クナルデハナカラウカ、要スルニ統計ヲ見ル際ニハ同大ノ分子デアツテモ分母ガ小サケレバ率ハ大ニナル、又分子ヲ小クスレバ同大ノ分母ニテモ率ハ小クナルコトヲ見ネバナラヌ、又募集員、醫師ノ不德等ノタメ結核ヲ祕シテ契約シタル場合是等ノ人ハ會社側ニ屬スル故ニ責任ハ會社側デアルカラ、カヽル場合デモ保險

會社デハ支拂ヲ拒ムコトハ出來ナイ、而シテカヽル問題ハ結核ニ關シテ最モヨク起ルコトヲ醫界ノ諸君ニ注意シテ貰ヒタイ、兎ニ角各會社ヲ通ジテ年々結核死ニ支拂フ金額ハ一千萬圓ヲ超エルノデアリマシテ、是等會社ノ損害ハ別トスルモ、國家ノ中堅タルベキ青壯年ノ前面ニ現ハル、危險、結核ノ豫防撲滅トイフコトハ國家社會ニ於ケル重大ナル問題デアリマス。

吾レ等同業者ハ年々一千萬圓宛ノ損害ヲ蒙リツヽアルノデアリマスカラ、今假リニ結核死ガ百分ノ一乃至十分ノ一減少スルトスレバ、會社ハ十萬圓乃至百萬圓ノ損失ヲ免ガレ、國家ハ夫レダケ發展スルワケデアリマスカラ、例ヘ目ニ見エテ直接會社ノ利益ニナラナイトシテモ、同業者タチハ永遠ノ策トシテ結核豫防ニ目覺メ、年々蒙ル損害ノ一部ヲ投ジテ結核事業ヲ助成シ、一日モ早ク國家ノ損害ヲ除クト共ニ、會社ノ健全ナル發達ニ資センコトヲ希望シテ居マスガ、中々贊成ガ得ラレマセヌ、併シ是等ノ事業ハ一個人一會社ノヨクスル所デハナイカラ、一般人士ニ結核智識ヲ普及セシムルコトガ最モ必要デ、ソレニ就イテハ特ニ本會員諸君ノ御努力ヲ願ヒタイト思ヒマス。